

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新岩倉市立学校給食センター	階数	地上2F
建設地	愛知県岩倉市	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	34人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	1,680時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年8月 予定	評価の実施日	2015年2月3日
敷地面積	6,466.98 m ²	作成者	野々目 時宗
建築面積	1,808.24 m ²	確認日	2015年2月3日
延床面積	2,387.45 m ²	確認者	野々目 時宗



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 84%

③上記+②以外の 84%

④上記+ 84%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・材料

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>16.1 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	16.1 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	16.1 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境									3.3
1 音環境									
1.1 騒音									
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-		
2 設備騒音対策				-	-	-	-		
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音									
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温				3.5	0.50	-	-		
2 負荷変動・追従制御性				3.0	0.38	3.0	-		
3 外皮性能				5.0	0.25	3.0	-		
4 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
5 温度・湿度制御				-	-	-	-		
6 個別制御				-	-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-		
8 監視システム				-	-	-	-		
2.2 湿度制御									
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式									
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率				3.3	0.25	-	-		
2 方位別開口				4.0	0.30	-	-		
3 昼光利用設備				4.0	0.60	3.0	-		
3.2 グレア対策									
1 照明器具のグレア				-	-	-	-		
2 昼光制御				4.0	0.40	3.0	-		
3 映り込み対策				3.0	0.30	-	-		
3.3 照度									
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御									
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		
4 空気環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質				3.7	0.25	-	-		
2 アスベスト対策				4.0	0.50	-	-		
3 ダニ・カビ等				4.0	1.00	3.0	-		
4 レジオネラ対策				-	-	-	-		
4.2 換気									
1 換気量				3.0	0.30	-	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4 給気計画				-	-	-	-		
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視				4.0	0.20	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性				3.4	0.40	-	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.40	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	3.0	-		
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観				3.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33	3.0	-		
3 内装計画				3.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計				4.5	0.30	-	-		
2 維持管理用機能の確保				5.0	0.50	-	-		
3 衛生管理業務				4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震									
1 耐震性				3.3	0.31	-	-		
2 免震・制振性能				3.8	0.48	-	-		
2 免震・制振性能				4.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.33	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.09	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-		

2.4 信頼性					3.0	0.19			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.6	0.29			3.6
3.1 空間のゆとり					4.6	0.31			
1	階高のゆとり			階高4.2m	5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.129	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性					3.5	0.38			
1	空調配管の更新性			天井裏スペースを確保	4.0	0.17			
2	給排水管の更新性			配管ピットの設置	5.0	0.17			
3	電気配線の更新性				3.0	0.11			
4	通信配線の更新性				3.0	0.11			
5	設備機器の更新性				3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.37			2.5
1 生物環境の保全と創出		●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				空地率71.59%、緑被率+中高木の水平投影面積率11.61%	2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.5
LR1 エネルギー					-	0.40			3.7
1 建物の熱負荷抑制				モデル建物法[BPIm]での評価	4.0	0.09			4.0
2 自然エネルギー利用					4.0	0.26			4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用			ハイサイドライト、トップライト	4.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用			太陽光発電及び風力発電の設置	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				モデル建物法[BEIm]での評価	4.0	0.39			4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					4.0				
集合住宅の評価					3.0				
4 効率的運用					3.0	0.26			3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.5
1 水資源保護					3.0	0.15			3.0
1.1 節水					3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					3.8	0.63			3.8
2.1	材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	再生砕石(舗装下)、ビニル床材、タイルカーペット(床仕上)	5.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	●		S造の為、躯体と仕上が容易に分別可能	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮			①	モデル建物法[BEIm(オンサイト分含まない)]によるCO2排出量算	3.6	0.33			3.6
2 地域環境への配慮					3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				卓越風向に対し建物の見付面積を抑える	3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.7	0.25			
1	雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	●		全職員分駐車場及び来客用駐車を確保、導入路の形状に配慮	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制			廃棄物庫・残滓庫・デイスポザーの設置	4.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音	●			3.0	1.00			
2	振動	●			-	-			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				3.0	-			
3	日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策				3.6	
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10		
② 資源の有効活用					3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19		
③ 敷地内の緑化				2.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11		
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-		
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-		

■重点項目スコア算出式
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点
- ②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア= 重みの総和
- ④地域材の活用

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 新岩倉市立学校給食センター

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>4500食対応の共同調理場として、ドライ方式の厨房を基本とした給食センターです。食育やアレルギー食に対応した施設であり、省エネルギー、環境負荷低減にも配慮した『安全で衛生的な環境に優しい学校給食センター』です。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>室内の作業音の影響を抑えるため、開口部に遮音性の高い建具を採用します。又、化学汚染物質発生源対策として、F☆☆☆☆の建築材料を全面的に使用します。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>仕上材等には更新間隔が長いものを積極的に用いるとともに、設備・仕上の更新が容易な設えとします。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>防犯性・安全性に配慮し、敷地内に十分な空地を確保します。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>空調・照明器具は省エネに配慮した器具を選定します。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地外への日影・騒音等に配慮し、敷地境界線から十分に離れた位置に建物を配置します。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田園風景に調和したシンプルで清潔感のある外観デザインとします。 ・機能的に必要な高さを確保する一方で、周辺に圧迫感を感じさせないように、建物全体のボリュームを低く抑えます。
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>